



Evaluation of nailfold capillaroscopy findings in patients with primary biliary cirrhosis

メタデータ	言語: English 出版者: 公開日: 2017-07-19 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 物江, 恭子 メールアドレス: 所属:
URL	https://fmu.repo.nii.ac.jp/records/2000109

論 文 内 容 要 旨

しめい 氏名	ものえ きょうこ 物江 恭子
学位論文題名	Evaluation of nailfold capillaroscopy findings in patients with primary biliary cirrhosis 原発性胆汁性肝硬変における手指爪郭毛細血管所見の検討
【目的】 Raynaud 現象を示す症例では手指爪郭毛細血管に形態的な異常所見が認められ、欧州では nailfold capillaroscopy での評価が広くなされている。原発性胆汁性肝硬変（PBC）患者においても Raynaud 現象の合併例は少なからず存在し、今回、手指爪郭毛細血管の画像所見と臨床像との関連を明かにすることを目的とした。 【対象と方法】 PBC 70 症例（男性 14 例、女性 56 例、平均年齢 64.2±12.1 歳）および PBC 以外の肝疾患 57 症例（男性 19 例、女性 38 例、平均年齢 69.0±11.2 歳、ウイルス性慢性肝疾患 44 例、自己免疫性肝炎 8 例、非アルコール性脂肪性肝疾患 5 例）を対象とした。Nailfold capillaroscopy を用いて左第 4 指手指爪郭毛細血管を観察し、保存された画像所見から正常と異常所見（軽度、中等度、高度）に分類し、PBC における異常血管の出現頻度および臨床像との関連について検討した。 【結果】 PBC では手指爪郭毛細血管の異常所見が 38 例（54.3%）に認められ、PBC 以外の肝疾患での 8 例（13.8%）に比べ有意に高頻度であった（$P<0.00001$）。その内訳は軽度異常 15 例、中等度異常 18 例、高度異常 5 例であった。異常例では Raynaud 現象を 14 例（36.8%）と正常血管例に比し有意に多く観察されたが、肝機能検査値や肝硬変合併頻度に差を認めなかった。また、抗セントロメア抗体（ACA）は、手指爪郭毛細血管が正常 32 例中 3 例（9.4%）、異常 38 例中 19 例（50%）に陽性であり、異常を示す PBC 例に有意に多く認められた（$P=0.0002$）。一方、抗ミトコンドリア抗体陰性の PBC11 例中 7 例（70%）、Raynaud 現象を有さない PBC55 例中 24 例（43.6%）に異常所見を認めた。 【結語】 PBC では手指爪郭毛細血管所見の異常所見が他の肝疾患に比較し有意に高頻度で認められ、nailfold capillaroscopy による観察は侵襲性がなく PBC の拾い上げに有用な検査法になり得ることが示唆された。	

※日本語で記載すること。1200字以内にまとめること。